



食べ頃柿「次郎」 選果基準を変更

三重・JA伊勢
玉城部会

【三重・伊勢】JA伊勢玉城柿部会は10月中旬、玉城町の同JA玉城選果場で柿「次郎」の出荷を始めた。

出荷初日は、品質や形状、大きさ別に分けて箱詰めし、約2トを出荷した。初出荷の前には同選果場で目ざろえ会を開き、部会員約60人が参加した。

同部会では、市場との連携を強め、食べ頃の「次郎」を消費者に提供できるよう、選果基準を改め、より赤く色づいた柿の出荷を行っている。同JA担当者らは「今年産は、高温と小雨の影響で小玉傾向だが、品質は上々。食べ頃の次郎を、消費者に届けたい」と話

同部会では部会員78人が約25畝で「次郎」を栽培している。出荷は11月下旬まで続き、名古屋と県内の市場に約180トを出荷する計画だ。